

このえ



すごい、最高齢83歳でパソコンに挑戦（九重寿大学・パソコン教室）

6月定例会

- 補正予算・請願、陳情他 P.2～P.3
- 一般質問 7名 P.4～P.10
- わたしのひとこと
飯田無田上 田中 千年さん P.11
野上中央二 近田 美香さん
- こんな町にしてほしい 東飯田小学校6年 小路 早紀さん P.12

平成21年 第2回定例会

本定例会は、6月9日から19日までの11日間開催されました。

議案8件、報告2件、発議2件は原案のとおり可決されました。

陳情2件、請願1件は慎重に審査しました。

一般会計は歳入歳出にそれぞれ3億9,357万9千円を追加して、総額で65億7,357万9千円となりました。

補正予算の 主なもの

- ◆ 豊後中村活性化施設整備事業費
5、351万7千円
- ◆ 農地費
(恵良水路外)
2、600万円
- ◆ 林業振興費
(林道鹿伏線)
3、000万円
- ◆ 道路新設改良費
1億3、580万円
- ◆ 地区集会所建設事業費
2、970万円

補正予算・企画費の補助金に質疑集中

問題となったのは、日中陝西協会の九重実行委員会への補助金150万円の増額補正である。

Q 日中陝西協会の九重実行委員会補助金が当初100万円組まれていたが、今回追加で150万円計上されている。歓迎レセプションの費用との説明だが詳細を聞きたい。

A 中国の要人や協会のメンバーの宿泊がビジネスホテルでの対応を希望、町内にはビジネスが無いためホテルの部屋を一人一室にすると約3万円必要で半額の1万5千円を助成したい。又、レセプション費用を九重町で負担することになった。

A 九重町の自然保護の取り組み等に、感心を強く持たれたので、環境を中心に関係を深めていきたいと思う。

Q 日中陝西協会は過去9回開かれたようだが、どこで、どのように、又、どのように発展しているのか等を伺いたい。

A 過去の開催場所は日本と中国が交互に開催しているが、国内は高松、京都、東京、浦和などで開かれたが、内容やその後の交流については把握していない。

Q 九重町で開催される、日本側の出席者などについて伺いたい。

A 日本側はこの日中陝西協力を立ち上げた村山元総理や一村一品運動で知られる平松前知事、広瀬現知事に町内関係者の約20人と中国要人等20人の計40人程を予定している。

Q 身の丈に合った付き合いを今後要望する。

議会の動き

《4月》

6日 高校再編問題六者会議

10日 正副議長・委員長会

13日 ③地域情報対策(特)

14日 春の交通安全街頭指導

15日 総務建設産業(常)

16日 巡視

16日 教育民生観光(常)

21日 巡視

21日 シンポ「どうする

大分の農業教育と人材育成」参加

22日 ⑤大吊橋周辺対策(特)

28日 正副議長・議運会議

《5月》

6日 岡本部長と意見交換会

7日 ⑥大吊橋周辺対策(特)

8日 全員協議会

11日 13日 教育民生観光常任委員会「視

察研修」埼玉・静岡

13日 15日 総務建設産業常任委員会「視

察研修」長野・山梨

19日 21日 全国町村議会議長・副議長研

修会(東京)

26日 大分県町村議会議

長会役員会・事務局

28日 議長会(日出町)

議長運営委員会

平成21年第3回臨時会

みなさん方の請願や

陳情はこうなりました。



請願

●請願受付番号第1号 大分県教職員組合玖珠支部執行委員長平原一幸氏外1名からの「義務教育費国庫負担制度の堅持および教育予算の拡充を求める意見書提出に関する請願」は、

地方自治体の財政状況によつて社会資本の整備・管理に地域間の格差が生じたり、台風や地震などの災害から国民の生命等が守れないなどが心配されている中、陳情の趣旨は理解できるとして採択することになりました。

教育の機会均等や教育水準の維持向上は憲法の保障するところで、義務教育は国が責任を持って堅持すべきで、請願の趣旨は理解できるとして採択しました。

陳情

●陳情受付番号第3号 国土交通省管理職ユニオン九州支部長馬田晴夫氏からの「安全・安心な国民生活実現のため、国土交通省の地方先機関の存続を求める

現在使用している館内一部でのパンづくりに加えて物品販売、展示、地域交流等の活動を通して将来の子どもたちの生活の場への支援などの活動資金の確保と同時に障害者への理解者を増やし、ともに交流できる

陳情」は、

国に対して意見書を提出

場づくりは理解できることから採択とすることにしました。

義務教育費国庫負担制度の堅持および教育予算の拡充を求める意見書。

安全・安心な国民生活実現のため、国土交通省の地方先機関の存続を求める意見書。

可決された議案

九重町過疎地域自立促進計画の一部変更は、

「恵良基幹水路改修工事」、「林道鹿伏線道路整備事業」、「高規格救急車・救助工作車購入負担金」、「南区集会所建設事業」をそれぞれ過疎地域自立促進計画に加えるもの。

国民健康保険条例の一部改正は、

地方税法等の一部を改正する法律の施行に伴い改正するもので、介護納付金課税被保険者にかかる介護納付金課税額の課税限度額の改正と上場株式等の配当所得の申告分離課税を可能とした制度の創設に伴うもの。

道路廃止と道路認定は、

飯田の町道樋の口松山線の改良工事の完成に伴ない改良前の路線を廃止し、改良後の路線を新規認定するもの。

国民健康保険条例の一部改正は、

緊急の少子化対策として平成21年10月から平成23年3月までの経過措置として実施するもので、出産育児一時金を現行の35万を39万円に引き上げるもの。

日	内容
29日	玖珠九重行政事務組合議会「議運・臨時会」
"	日田玖珠議長会「総会」
"	日田玖珠広域消防組合議会「議運・臨時会」
29日	《6月》
1日	②高校再編問題対策(特) 議会運営委員会
4日	本会議「開会」
9日	全員協議会
"	④地域情報対策(特)
"	議会広報特別委員会
10日	玖珠郡防災訓練
11日	総務建設産業(常)
14日	教育民生観光(常) 第12回議長杯少年野球大会
15日	本会議「一般質問」
16日	③小学校再編問題対策(特)
"	③高校再編問題対策(特)
19日	⑦大吊橋周辺対策(特) 議会運営委員会 本会議「閉会」
"	議員研修①「人権学習」②「議会改革」
"	⑧大吊橋周辺対策(特)
23日	議会広報特別委員会
24日	玖珠九重行政事務組合議会「監査」
29日	大分県後期高齢者医療広域連合議会「全員協議会」

※(常)常任委員会
※(特)特別委員会

私の一般質問

6月15日に7名が質問しました。質問と答弁の内容を要約してお知らせします。

佐藤 博美



保健活動の充実を

2名増やして6名体制

佐藤 町民が病気をせずに健康に暮らせることが一番大切なことで、一人一人の町民自らが病気にかからない様な食習慣や健康づくりができる様な指導をしていく事が大事で、この事により国民健康保険や介護保険、老人医療の財源不足も解決する。

先日委員会研修で、視察に行った埼玉県の小鹿野町は人口1万4千人の町で8名の保健師が地区担当を持ち活動する事で、一人当りの老人医療費が全国平均よりも20万円以上安くなっている。我町の保健活動を見



町民の保健活動の中心施設「保健福祉センター」

町長 今保健センターの保健師は4名いるが1名は介護保険の包括支援センターの保健師として仕事をし、あと1名はグループリーダーとして飯田高原診療所、健康増進グループの庶務等もしている状況で現実には保健師1名と臨時の保健師2名で行っているのが実状である。

保健師の採用については募集はしているが保健師が不足している状況が全国的にもある様で本年度は採用できなかったが、九重町としてはあと2名の採用をし、保健師6名の体制を計画している。

食育、具体的に
どう進める

健康づくり

推進会などで

佐藤 町民の健康を守るという面から考えると食育は一番大切な事であり、今ほとんどの病気は食べ物で起きている。「自分で食について考え、判断する力をつける。」この食育をどう具体的に進めていくのか。

町長 健康このえ21、食生活運動の取り組みの拡大と合わせて、健康づくり推進会議で進めていきたい。

教育長 早寝早起き朝ごはん全国協議会ができ、運動を展開している。生活リズムの向上が第一ということで、PTA活動を通して学校でも今、非常に重要な問題として取りあげている。



福岡にアンテナショップの開設を

十分調査し、検討

安部 農林業や商工業、観光等、全産業において大変厳しい現状で、九重町は合併せず自律の町でいく。そのような中、大吊橋もでき注目されている。だが、今一つ地域の活性化につなげてない。PR不足かと思われる。九州の経済の中心は福岡であり、九重町を訪れる観光客も福岡の人が多く、農産物の消費者の多くも、マーケットもやはり福岡である。福岡にアピールする事が必要で、幸い福岡

町長 アンテナショップも随分昔と方向性が変わってきたんじゃないか。悪いことではない。FBKの皆さま



多くの地元産品が並ぶ吊橋の農産物直販所

の優良企業三百社で組織する福岡ビジネス協議会（FBK）と九重町の交流が盛んになっていく。この消費者であるFBKの皆さんの支援（会員）に成っていたら、九重町に九重町の拠点としてアンテナショップを開き、農産物（特に有機農業等）の紹介販売、又、観光情報、PR等の発信基地として福岡にアンテナショップの開設をしたらどうか。

ん方の協力知恵を借りながら十分調査をし、検討したい。

トレーニングルーム開設を 中途半端はダメなので 研究したい

安部 若者や高齢者の体力健康維持等にトレーニングルームの開設をしたら。

九重町は山岳地帯で雨が多く特に冬期は寒さが厳しく運動不足になりがち。先日長野県川上村（人口、4千8百人）に研修に訪れた際、トレーニングルームを見学した。各種のトレーニングマシンが備わっていた。九重町においても高齢化が進み高齢者も多くなる。幸い九重町では福祉センター付近に温泉もあり、電気マッサージ等も併設し、憩いの場とすればお年寄りから子、孫まで利用でき健康維持、医療費の軽減にも繋がる。ぜひトレーニングルームの開設を。

町長 私も都会ではよく見かける。一台や二台あっても効果はない。やるなら徹底したものでいろんな種類が必要。高額な費用もかかるし、利用度等十分調査研究をしていきたい。



保健福祉センター内にある数少ないトレーニングマシン



統合中学校には 専用のグラウンド・体育館が必要

活いきランド施設等の共用を考えている

井上 教育委員会の学校再編整備計画最終案が、去る5月28日、議会に示されたが、(3中学校統合でスタートする)統合中学校の現時点での具体的な建設予定地はどこを考えているか。

教育長 計画案に、活いきランド周辺と明記しているが、具体的な場所はまだ決まっていない。

井上 保健福祉センター前の駐車場あたりが、候補地の一つと考えられていると思うが、そこは、狭く、寄りつきも悪く、学校建設地としては適切でない。

また、最小の経費で建設するために、既存施設を有効活用するということで、約10年前に、町民用の体育施設として多額の経費を投じて整備した体育館や、活いきランド施設を中学生に兼用させることは望ましくない。中学校は、体育の授業、いろんな学校行事、部活動等で、グラウンドと体育館はほとんど一年中使用する。専用のグラウンドと体育館は絶対に必要である。

教育長 現状では、活いきランド施設等を共用することを考えている。

国の省令で、中学校設置の最低基準が示されているが、それによると、専用のグラウンドと体育館を設置しなさい、という基準がある。しかし、ただし書きに、地域の実態、特別な事情があり、教育上支障がなければ、この限りでないと示されている。これから、そういう問題も含めて検討していく。

統合中学校建設は 東飯田中学校用地に

検討委員会に示すが、可能性は薄い

井上 役場周辺に、専用のグラウンドと体育館を備え、地元産の杉材を使った木造2階建てぐらいのゆとりのある学校建設に必要な用地確保ができないとすれば、東飯田中学校用地に統合中学校を建設するとよいのではないか。

その理由として
・ 周囲には緑があり、静かで、中学生が学ぶ環境として是最適である。
・ 広いグラウンドなど、既存



統合中学校建設に適している東飯田中学校用地

施設の有効活用ができ、用地購入費も要らない。

その他にもあるが、問題点としては、他地区からのスクールバス通学生の乗車時間が10分近く長くなる。その点に理解が得られれば、東飯田中学校用地は、統合中学校建設地として最適だと思う。検討できないか。

町長 私も、この周辺を何か所か見てみたが、面積が狭かったり、杉山になって

しまったりしている。そういう所も選択肢の一つとして検討していくことになっている。

東飯田中学校を校地にとすることは、場所は広く、グラウンドもあり、環境的に悪くないと思うが、この中学校統合は町内1校を基本にしている。今はできずとも、将来的には1校にすべきたと思っっている。他の地域からの通学が障害されることを考えられる。

東飯田中学校用地も選択肢の一つとして検討委員会に示すけれど、可能性は薄いと思う。

退職者の再就職について

役場の関係する職場は原則公募に



佐藤 勝憲

佐藤 今年の退職者の就職先をみると、町の管轄の施設に勤めているようで、天井下りではないか、町民の立場に立って、考えてもらいたい。

町長 基本的に役場の関係する職場については原則公募となっており、応募多数の場合は選考をしている。又、役場以外の企業とかについては特に斡旋していない。



積み上げられた杉、玖珠郡森林組合の木材共販所

統合中学校の建設は木造で

常に木材利用を頭に

佐藤 木造建築で、町有林の木材を使用するように考えて見ては。

町有林の中にも50年から

80年生の杉もある。木造建築にすれば子ども達の健康にも役立つのではないかと。

町長 町営住宅等木材で建てており、常に木材利用というものを考えている。町有林からの利用ということ

については、必要な材といえない材もでて来るので、森林組合とタイアップする等、今後検討したい。

田舎づくりの考え方を

11月下旬までには成案を！

佐藤 日本一の田舎づくりをするには、農業振興と人づくりをまず先にしなければならぬ。

若者が町に残る気持ちに

なる魅力ある町にし、町民一人一人がゆとりある生活が維持出来る町でなければならぬ。どう考えるか。

町長 日本一の田舎づくりプラン検討委員会を立ち上げたばかりなので、これから検討委員会が町の特徴である農業や観光の町、あるいは安全・安心な町づくり、健康や、福祉の充実、そう

いうもの話を聞いて、最終的にプランをつくり上げていき、11月下旬くらいまでには成案を作成し、来年の予算に反映をしていきたい。

農業再生 どうする担い手の教育

一学科では後継者育成は難しい



坂本憲治



花をアレンジする玖珠農高生

坂本 県教委は、郡内の、高校二校の統合を推進しようとしているが、その内容は、農業系学科を一学科としている、県農林水産部等では、将来の食料不足の為に又安全で安心な食料生産を推進している。単純な数合わせの農業教育では、担い手は育たないのではないかと不安と不満である。将来の食料生産をだれがするのか町として、強い姿勢で望むべきでは。

町長 昨年一月、後期高校再編整備計画の素案では、郡一校、普通科4学級と農業系学科1学級である。農業生産額も減少する中で、農業振興を図るうえでも、専門の農業高校は必要で、総合選択性では後継者の育成は難しい。今後、町村会の政務調査会で、県の幹部や教育部局、農業部局とも、意見交換をしていきたい。

後継者に独自支援はないか

希望にそえる方法で

坂本 新規就農者や若い後継者は、いずれ町農業の指導的役割を担う人達であり色々と見聞を広め、先進地や、高技術を身に付けてもらい、町の指導者になってもらう為にも、町として、制約を受けない、独自の研修費等で希望者の支援をしてはどうか。

町長 町として担い手育成総合支援協議会があり、アクションサポート事業により、経営診断、税務相談、簿記研修等行っている。研修支援は必要な事であり、人材育成事業による活用で、希望にそえる方法があると考えられる。

川の事は川に聞け

経営は圧迫状況にある

坂本 毎年5億円、6億円の農業予算を組みながら、農家、農業は、きびしい状況が続いているが、予算の有効活用の為に、現場の声を聞いて、現状を知る事が大切である。現在の農家の現況と、今後の課題について伺いたい。

町長 昨年の原油高騰による、景気の悪化や生産資材の値上がりで、農家経営は非常に圧迫状況にある。高齢化や、後継者不足で規模縮小している農家もあり、なお一層の対策が必要と思

ケーブルテレビの活用も

今後の課題

坂本 ケーブルテレビも、配信がスタートした。農業関係の情報発信にも活用してはどうか。

町長 6月に実施放送を開始したところで文字放送においては、防災無線と同じ内容を流すことを基本に今進めており、地域の行政情報や、身近な行事、イベント等、準備中で、農業関係は、現時点ではないが、今後の課題であると考えている。



このケーブルテレビ自主放送の編集作業

あるのか・ないのか認識は

『天下り』にはあたらない



江藤 一幸

江藤 3月は、イエローカード。今回は、レッドカード。『天下り』国語辞典では、『官庁の高官がその官庁に監督される民間の団体・会社などに移ること。』インターネットでは、地方公共団体においても、『幹部クラスの職員が退職後に関連団体や出資法人の高い職につくこと』があり、これも天下りと言われる。国家公務員法では『退職者が退職以前5年間の地位に関係する民間会社へ再就職することを退職後2年間禁止』している。

これをふまえどのように町長は認識しているのか。町民の声なき声を聞いているのか。退職者の臨時雇用の制度・ルールを作り町民から見てもなるほどと思われる仕組みを早く作れ。

町長 『天下り』というのは、高い職に就くことで、公民館等の臨時はあてはまらない。商工会長さんから、いい人材があったならば、試験を受けるように言ってくださいと話があったが、あとは県の試験ですから。

バイオセンターも決して高い職ではない。高い給料でもなく退職金も無い。声なき声、ちまたの声があることは聞いている。人事の声なき声、皆さん方に聞こえないが、直接言っていたきたい。それを参考にこれから進めていきたい。



カラ松の香りがする木造の統合中学校（長野県川上村）

中学の校舎建設・木造で

早急に調査する

江藤 長野県川上村は、7つの補助事業を活用して中学校を建設している。庁舎内のチームですぐに調査・研究、先進地視察等された。

いろいろな事業を活用し、町の負担が少なく、グレイドのいい町産材を使った木造校舎を建設されるよう提言する。

教育長 直接間接、そういう話を聞いたので、早速プロジェクトチームで議論したい。長野までというところ、予算もかなり要るので、何人か代表を送り込むとか、川上村に限らずそのような木造建築で成果を上げているところを中心に、早急に調査活動をしていきたい。



早急に有効な景気支援対策を！！

計画を立てて実現したい

藤原 全ての職種が長びく不況で苦しんでいる。地域の消費拡大と人口確保のためにも、野上や恵良に眠っている町有地に早急に地元木材を利用して若者定住用住宅を建てられないか。

九重町に住みたくても住宅がなく隣町から働きに来る人もいる。民間の力を借りてでも取り組み、地元木材使用への補助や、建物に係る税金の免除などの支援を行えばいろんな企業の経済効果が考えられ、将来的にも人口減少の歯止めと地域の消費拡大につながると思われる。住宅着工の早期実現はできないか。

町長 この不況は全ての職種に及んでいると感じている。町有地については、中村住宅は23年に公営住宅を建設し、恵良の工場跡地は分譲して若者住宅にと考えている。昨年から家賃補助も実施しているので今のところ固定資産税免除は考えていないが、県産材使用の補助は21年度から県で実施しているので申請して頂きたい。

農林業への

経済支援は

要望があれば 実施する

藤原 県の環境税補助事業で竹の粉碎機購入支援がある。高齢化で荒れた竹林を整備して竹の子の地産地消を計り、農家の収入につなげたい。太い元の材を竹炭や建築用、園芸用、農業用等に利用すれば、開花病の予防や環境整備ができ、粉碎屑は竹山や田畑の堆肥になる。一石二鳥のこの機械を町が購入して、町民へ貸しだしてはどうか。



町内の竹林で実演中の粉碎機

町長 竹林の多くは急傾斜地が多く、キャタピラ付きの粉碎機がどれだけ利用できるかが問題だと考える。竹の子の消費がどれだけあるのか、加工施設についても全く研究していない。粉碎機については森林組合等への委託も考えられる。町内にどのくらい事業量があるのか要望調査を実施して、利用者が多ければ、導入、整備を進めたい。

結婚問題を

最重要課題に

難しい問題だが 努力したい

藤原 町は定住1万人確保を目標に、結婚支援を行っているが、町内の年代別の未婚者数はどれくらいおられるのか。今後どのように取り組んでいくのか。国の行った推計によると町の人口は10年後に1万人を割り込み、何も手を打たねば20年後の人口は8千人になる。田畑は荒れて有害鳥獣の住み家も増え、集落の祭りや、維持管理、共同作業も困難となり、集落の消滅も危惧

される。一年間で88人の出生があるが、一方町の人口は144人減っている。結婚を望む方も親にとっても早急に支援が必要ではないか。町に結婚推進グループを設置し、アドバイザー事業に力を入れて、農業委員の方や高齢者の方の力を借り、どの家にも子どもの声が響く明るい町づくりこそ日本一の田舎づくりと考える。11月に成案となる日本一の田舎づくりの最重要課題として取り組めないか。

町長 町内未婚者で30から40代の男性は313人、女性111人となっている。町内に8人のアドバイザーと共に年5回の出会いの場を開催している。昨年は2件の成果があった。今後もアドバイザー活動に力を入れて行きたい。全国的に晩婚化、少子化が進み大きな課題と認識している。日本一の田舎づくりの中にも計画に入れて取り組んでいきたいと思っている。難しい問題だと思っているのでもいい知恵があれば貸していただきたい。

わたしのひとこと

喜寿を迎えて

飯田 豊田上

田中 千年 さん



親しい隣家の大石議長から依頼を受け、久方ぶりにペンをとることになりました。思えば今年、喜寿八十路も間近高齢化社会にどう生きるかが優先する歳を迎えて、老人会等組織活動もその一つでしようし個々では自由な発想のもとで何が自分のできる何か、を探しだすのも又よい方法だと思えます。



広がれ花いっぱい運動

諸活動の基礎は心と体の健康維持が大事。それがなければ生活を楽しむことも地域の人々とのかわりや安らぎも生まれにくい。高齢者に合った体操やジョギング、気分転換の小旅行など自分でできる行動で健康維持に務めたいと思います。次に活動はあまり無理せず維持することが大切です。私達地区組織活動は町内他団体と概ね同じですが素敵な「住環境」をつくるための地域集落花いっぱい運動への協力参加することで生きがい対策の一つにしていることです。

それから町や議会当局に強くお願いしたいことは安心安全のための交通弱者対策であります。高齢者は車の運転できない比率が高く路線バスを利用したいけど小学校通学バス以外利用便がなく、将来過疎集落がかえる大きな悩みと課題、今後よろしくご検討善処方お願い申し上げます。

尚交通弱者対策が機能すれば高齢者の免許証返納運動の一助にもなるのではないのでしょうか。

読書ボランティア

を

野上 中央二

近田 美香 さん



「おはようございます。」毎週木曜日の朝、教室に入り本を読む。読書ボランティアに入ってから6年が過ぎました。小学校1年生から6年生までの教室に一人ずつ入り本を読みます。今は、12名のボランティアがいます。私が始めた理由は、子どもの様子が見たかったので参加してみようと思いましたが、今でも、その気持ちは変わりません。しかし、テレビやゲームなどで活字ばなれが進む中、少しでも本に接してもらおうと足を運んでいます。選書に悩み静かに聞いてくれないと落ちこみ反省します。本に感心を持ってくれればと試行

錯誤です。先日、読み聞かせで、なかなか聞いてくれない子に、どんな本が好きか尋ねると、「マンガ。」と答えました。私は嬉しかったです。マンガはあまり良くないイメージがありますがマンガの内容でも構成がしっかり立てられていたり、四字熟語や難しい漢字も使われていて大人でも読みこたえのあるような本もあります。マンガからでも読んで本を好きになってくれるといいなと思います。以前よりボランティアに行く回数減ってしまったけれど他のボランティアの方々と協力して子ども達に沢山の本を読んであげたいです。皆さんも週一時間でも読書の時間をつくってみてはいかがでしょう？



ボランティアの読み聞かせに聞き入る子どもたち

こんな町にしてほしい

きれいな九重町

東飯田小学校六年

小路 早紀 さん



私は、九重町を、ごみのないきれいな町にしたいです。最近、お菓子の空やベツトボトルなどのごみが目立ちます。このようなものがあると、見た人にきたない印象を与えます。私はみんなで力を合せて九重町をきれいにしたいです。皆さんの人に来てほしいと思います。学校でも、ごみが多いと先生が言っていました。運動場周辺のごみ拾

いをする必ずバケツ一杯のごみが出るそうです。最近では、花火のゴミも出ています。タバコの吸い殻もたくさんあり、大人がポイ捨てをするから、子供もするんだと思います。拾う人がいても捨てる人がいれば、ごみはなくなりません。私は、ポイ捨てをしている人がいたら、注意をし、自分でもポイ捨てをしないようにします。そして、大人も、私達の、お手本である事を自覚して



きれいな花とゴミ

ほしいです。そして、いつまでも、たくさんの人達が九重町を訪れたくなるような、「きれいな町」にしてあげたいなあと思います。

議員リレー

随想

55

川上村での
研修から



井上 里子

去る5月13日、議員研修で長野県川上村を訪れた。人口約4800人、千曲川源流の標高1200メートルあたりの村。かつては大変貧しい村であったが、厳しい自然条件を活用して、現在はレタスの生産量日本一の村となり、高原野菜農家607戸の平均年収は2500万円。30代40代の農業従事者が全体の約37%を占め、後継者が定着している。嫁不足もないとのこと。村長は、アイデア、情

熱、行動力等を駆使して、住みよい村づくりに奮闘されているが、加えて住民の努力によって、住民の生活は、経済的な豊かさだけでなく、文化・教育の面でも豊かであり、医療・保健・福祉の面も充実している。医療・保健・福祉サービスを一元化する施設が整備されていて、その施設内の広い事務室で、役場の保健福祉関係の職員と社協の職員が連携して仕事をしている。隣に診療所がある。住民の健康増進、特に元

気な高齢者を増やすことに力を入れている。結果として住民一人当たりの医療費は大変少ない。研修の中で聞いた村長の話や、案内してもらった4つの施設の内容は参考になる点が多かった。本町も、町民が日々の暮らしの中で、真の豊かさや安心をもつと実感できるように、特に農業振興による所得の向上や、町民の健康保持のために、思い切った対策が必要だと思う。

編集後記

議会改革が全国的に叫ばれている。当町も例外でなく議会改革を進めようと、さまざまに取り組みを検討している。中でも通年議会の導入は期待をしたい。現在、通年議会を実施しているのは北海道の白老町や宮城県蔵王町、定例的に年4回開く実態は変えていないが、大半の議会は首長が招集しないと開けない。通年議会、たといつでも開けることから、専決処分などの処理等は避けることができるし、必要時にいつでも議長が議会を開会し、審議することができるので議会内も活性化し、改革の一助になると思う。

(小川 克己)

- ・ 広報委員長 竹尾 允文
- ・ 副委員長 藤原 三治
- ・ 委員 小川 克己
- ・ 委員 江藤 一幸
- ・ 委員 佐藤 博美
- ・ 委員 日野 康志